

地震被害修理中の相馬・涼ヶ岡八幡神社

修理工事が行われている亀齢社の屋根の前で、
銅板を手にする遠藤宮司



相馬市の涼ヶ岡八幡神社は、例大祭に合わせ20日から、2022年の最大震度6強の地震で被害を受け、修理工事を実施している境内の亀齢社（国指定重要文化財）について、屋根を覆う銅板に名前や願い事などの記入を受け付ける。同神社は「書き込むことをきっかけに、文化財の修理に関心を高めてほしい」としている。

「貴重な機会、多くの協力を」

屋根の銅板に 願い事記入を

（元禄8）年に建造された亀齢社の工事では、部分的に解体し、痛みが激しい部材を新しい木材などで補ったり、屋根の銅板をふき替えたりする。工事の過程では、屋根周辺に黒漆や金箔など当時の色彩が見つかった。現在はほとんど色あせているが、建造された当時は「相馬日光」と呼ばれるにふさわしい荘厳な姿だったという。

屋根の銅板は、全体で約300枚。1口3千円の寄進で名前などを記入できる。受け付けは来年1月まで、その後、屋根に敷き詰められる。同神社によると、ふき替えられた銅板は、50年以上風雨に耐えることができ、社殿を保護するといふ。

遠藤盛男宮司は「名前を長く残すことができる貴重な機会。多くの方に協力をいただきたい」と話している。亀齢社の工事完了は来年6月の予定。問い合わせは同神社（電話0244・36・4342）へ。

▲ 9月19日 福島民友新聞掲載

遠藤宮司はどんな思いで屋根の銅板に名前や願いごとの記入を受け付けているのでしょうか？

涼ヶ岡八幡神社は、建造当時どんな様子で何と呼ばれていましたか。

この記事からどんなことを考えましたか。